

学生による学生のための学習支援を中核とした学習支援モデルの開発 —オンラインによる学習支援デスクの試み—

Development of a Learning Support Model by University Students at Higher Education Institutions - A Trial of Online Learning Support Desk -

宮原 俊之^{*1}

Toshiyuki MIYAHARA^{*1}

^{*1} 帝京大学

^{*1}Teikyo University

Email: tmiyahara@main.teikyo-u.ac.jp

あらまし：近年の教育で求められる「何ができるようになったか」を多様な学生のもとでも実現するためには組織的な学習支援体制が必要である。本研究は、この総合的な学習支援体制のモデル開発を目的としており、その第1歩として、2018年4月に学習支援デスクを設置したが、2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大のためオンラインによる学習支援デスクを展開している。本発表では、その状況について報告する。

キーワード：学習支援，ピアサポーター，チュータートレーニング，研修設計

1. はじめに

少子化などの社会環境の変化によって学生の多様化が進んでいる高等教育機関においても、近年の教育では、「何を学んだか」だけでなく「何ができるようになったか」を重視する必要があるが、これらに対応するためには、授業時間内外において学生・教員・職員に必要なに応じて企業を加えた多様な協働（チーム）による組織的な学習支援体制が必要である。本研究は、この総合的な学習支援体制のモデル開発を目的としている。そして、その中核となるのは「学生による学生のための学習支援体制（以下、学習支援デスク）」である。

今回、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度春期をオンライン授業によって実施している大学が多くなっているが、その中で、2018年度から帝京大学八王子キャンパスで運用を開始した学習支援デスクがどのような取り組みを行いどのような成果や課題がでてきているのかを報告する。そして、その後の対面授業とオンライン授業の双方に対応する学習支援デスクへの考察とつなげていく。

2. 学習支援デスクとは

帝京大学八王子キャンパスにおける通常期の学習支援デスクは、「まなぶを楽しむ」というコンセプトのもと作られた学習空間（ACT3）に設置され、選抜された学生からなるピアサポーターが常駐し、全学生の学習に関するすべての相談に対応している。活動人数について表1に、相談件数と内容について表2に示す。この学習支援デスクにおいては、学生の主体的な学習支援運営をとおしての成長も期待しており、職員は運営のバックアップを中心に、教員は専門家としての見地から研修や運営にあたっての相談対応という形をとっている。

学習支援デスクに常駐するピアサポーターが、相談者に対して効果的な学習相談を実現するためには、個々の能力開発は欠かせない。そのため、大学発行資料の内容把握、想定問答集の作成やピアサポーターのみのランチミーティング、関係教職員も加わった定例会議を実施し、組織として情報共有を図るとともに、ピアサポーター向けに様々な研修を行っている。その研修についても、研修自体の質保証のため、また、研修を受けたピアサポーターの質保証のため、数年後のITTPC(International Tutor Training Program Certification)の認定を意識した設計を行っ

表1 ピアサポーター内訳

| 年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|-----|--------|--------|--------|
| 大学院 | — | 1名 | 0名 |
| 4年 | 16名 | 10名 | 7名 |
| 3年 | 13名 | 12名 | 25名 |
| 継続者 | — | 10名 | 7名 |

表2 相談内容別件数

| 相談内容 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | |
|-------------|--------|--------|------------------------|------------|
| | | | オンライン相談 ^(※) | Twitter質問箱 |
| 授業全般 | 9 | 19 | | 内訳は、 表3 |
| 授業内容・課題 | 27 | 23 | 1 | |
| 学習方法 | — | 7 | | |
| レポート・論文の書き方 | 16 | 17 | 1 | |
| その他 | 17 | 26 | | |
| 合計 | 69 | 92 | 2 | 169 |

※2020年度は、5月11日～5月末まで

ている。これは、ピアサポーターへの動機づけにも寄与できるほか、日本語でこの認定を学生が受けることができることへの影響も大きいと考えている。

この研修の一部は、学内の学生団体に所属する学生（大学の公的機関が抱える学生スタッフ）と合同で行い、学内の様々な人と交流し、見識を広げることへの期待もある。これらすべての研修を収録しLMSへアップすることで、復習する機会も提供している。なお、ピアサポーターに毎年度末に行っている調査では、ピアサポーターとして得たこととして、ゼロからのプロジェクト立上げ経験、帰属意識、視野の広がりをあげるケースが多い。

3. オンライン学習支援デスクの取組み

2020年度春期、新型コロナウイルス感染症の影響で授業開始が遅れている4月中旬に、ピアサポーターから、「SNSで不安が広がっている。ピアサポーターのSNSアカウントを活用し、学習支援デスクの学習相談をSNS上の質問箱として運用できないか」と相談があり実施することになった。これは、先に述べたとおり、学生の主体的な取り組みの成果でもあり、歴代のピアサポーターが得てきたことを継承できていることを示している。

実際に4月下旬からSNS上の質問箱を始めると、6月上旬までに169件もの質問があった(表3参照)。このSNS上の質問箱運用の流れは、相談のある学生がTwitterからリンクされているGoogleフォームに質問を書き込むことから始まる。その内容は、スプレッドシートに自動入力され、ピアサポーターはその質問に対して回答案を作成、入力する。担当職員の承認をもって、Twitterに質問とともに回答を掲載し一連の流れが終わる。匿名性や学生のSNSに対する馴染み深さもあり、件数は伸びている。一方、5月より始めたGoogleMeetなどを使用したオンラインの学習相談については、3週間で2件と伸び悩んでいる状況であるが、告知が十分にできていない状況であり、6月以降少しずつ予約が入り始めている(予約もオンライン予約)。

表3 Twitter 質問箱の内訳

| 相談内容 | 件数 |
|-----------|-----|
| 履修・時間割 関連 | 43 |
| 授業内容 | 9 |
| オンライン授業全般 | 21 |
| 学習方法 | 2 |
| レポート・課題 | 7 |
| 資格 | 17 |
| 情報処理関連 | 9 |
| 教科書・参考図書 | 10 |
| 大学生活・その他 | 51 |
| 合計 | 169 |

ピアサポーターの研修もオンラインによる試みを始めている。ピアサポーターとして活動するためには、採用が決まったあと、ロールプレイを含む6時間にわたる導入研修の受講を義務づけているが、大学への学生の入構が禁止されていたこともあり、それを逆にとり、一部ピアサポーターに対して、ロールプレイをZOOMを使って行った。実際に参加したピアサポーターからは、対面よりも相談者が話している際に顔を見てもらえず傾聴が難しいや、雑談をせずに本題に入ってしまう落ち着けなかったなど、オンラインだからこそ起こりやすい課題についての意見が寄せられた。今後、オンライン授業と対面授業の組み合わせた大学教育が進むことが予想されることから、研修プログラムについて検討を進めつつ、すでに活動しているピアサポーターにもその研修を組み込み、効果の測定を続けていく。

4. 効果の確認と今後の課題

現在の学習支援デスクは図1に示すとおり、相談者から評価は高い。その一方、2019年度に、学習支援デスクが設置されている「まなぶを楽しむ」というコンセプトのもと作られた学習空間(ACT3)の利用者に対して行ったアンケート調査では、その認知度は約50%であった。また、学習支援デスクを利用したいとは思わないと答えた学生は約13%にとどまるものの、実際利用したことがある学生は約6%であった。これは、期待値は高いが、実際に利用する一歩が踏み出せていないことを示している。認知度が徐々に上がるなか、この点の克服が今後の最大の課題である。その一つのきっかけとして今回のSNS上での質問箱やオンライン相談の仕組み使えるか、今後測っていきたいと考えている。新型コロナウイルス感染症の影響がなくなった後も、オンライン授業は継続されることが想定される中で、ピアサポーターとしての学習相談ツールとして活用でき、かつ、質問のしやすさへの効果があることがわかればその意義はとても大きい。あわせて、ピアサポーターの能力開発に向けても今回の取り組みの影響を測り、全体のモデルへの開発にもつなげていく。

データ集計についてご協力をいただきました帝京大学学術情報グループに御礼を申し上げます。また、本研究はJSPS 科研費 JP18K13241 の助成を受けたものです。

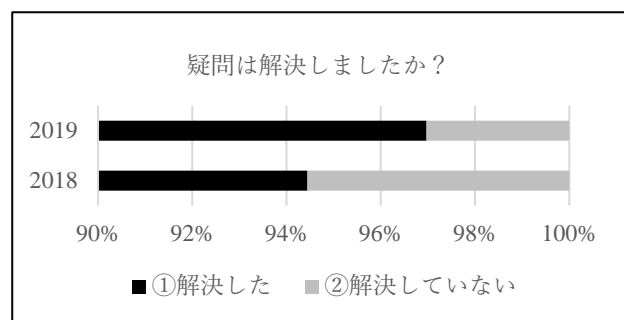


図1 相談者調査